第１１課　戦いから勝利へ

【暗唱聖句】

彼は言った。「恐れることはない。愛されている者よ。平和を取り戻し、しっかりしなさい。」こう言われて、わたしは力を取り戻し、こう答えた。「主よ、お話しください。わたしは力が出てきました。」ダニエル書10：19

【日曜日・断食と祈りをもう一度】

「ペルシアの王キュロスの治世第三年のことである…そのころわたしダニエルは、三週間にわたる嘆きの祈りをしていた。その三週間は一切の美食を遠ざけ、肉も酒も口にせず体には香油も塗らなかった」ダニエル10:1～3

キュロス王の治世第三年に、ダニエルは断食して嘆きながら祈っていたと書かれてあります。ダニエルは何のために嘆き祈っていたのでしょうか。おそらく、国に帰還した人たちのことを思って祈ったのでしょう。神殿を再建しようとすると、サマリヤ人が妨害します。サマリヤ人は偽りの報告を王に送って、一度許可した神殿の再建命令を撤回するように訴えます。このようなことは、ダニエルにとって心配の種となっていました。また王の帰還命令に喜んで応じた同胞たちがそれほど多くはなかったことも気がかりだったことでしょう。ダニエルはこのとき90歳近かったと思われますが、彼の祈りから学ばされることが多くあります。たとえば、すぐに聞かれなくても祈り続けることの大切さや、他の人たちのために自分の身を削ってまで祈る思いなどです。ダニエルの祈りは、決して口先だけの祈りではありませんでした。

【月曜日・天使長の幻】

「目を上げて眺めると、見よ、一人の人が麻の衣を着、純金の帯を腰に締めて立っていた。体は宝石のようで、顔は稲妻のよう、目は松明の炎のようで、腕と足は磨かれた青銅のよう、話す声は大群衆の声のようであった」ダニエル10：5，6

ダニエルは断食の祈りをしていた1月24日に、チグリス川の岸に立っていたとき、一人の人が立っている幻を見ます。それは受肉前のイエス・キリストでした。麻の衣は祭司がまとう服です。金の帯は王を現わし、宝石のような体は光輝く純潔さを象徴しています。さらに稲妻のような顔は威厳や権威を、炎のような目は善悪を見通す力を、大群衆の声も権威を象徴しています。この描写は黙示録1章13～16節に描かれているキリストと似ています。また、ヨシュアがみた「主の軍の将軍」（ヨシュア5:13，14）とも似ています。将軍と訳されているサ―ルはダニエル書でミカエルに対して天使長と訳されて言葉を同じです。このキリストの幻を見た後、ダニエルは「力が抜けていき、姿は変わり果てて打ちのめされ、気力を失ってしま」（10:8）います。周りの者たちは恐れて逃げてしまったとありますが、神様を前にしたとき、人は圧倒されてしまうのでしょう。

【火曜日・天使に触れられる】

ダニエルが力を失って倒れてしまうと、「突然、一つの手がダニエルに触れて引き起こし」（ダニエル10:10）ます。そして、「愛されている者ダニエルよ」と呼びかけ、「み言葉をよく理解し、立ち上がれ」と命じます。愛されているということ、御言葉を理解しなければならないこと、そして立ち上がること、この3つのことが常にわたしたちにも求められています。二度目に手が唇に触れると、ダニエルは口が開き、「主よ、この幻のためにわたしは大層苦しみ、力を失いました。どうして主の僕であるわたしのような者が、主のようなお方と話すことなどできましょうか。力はうせ、息も止まらんばかりです」（ダニエル10：16，17）と、自分の気持ちを訴えます。わたしたちも主の前では素直に感情を現わしても良いのです。そして、再び手を触れ、力づけてくれます（

ダニエル10：18）。そして、「恐れることはない。愛されている者よ。平和を取り戻し、しっかりしなさい」と語られると、ダニエルは力を取り戻すのです。このダニエルに触れた者は天使の一人でしょう。わたさいたちはダニエルように天使から手を触れられることはないかもしれませんが、天使はいつも私たちを励まし、力づけるために働いています。

【水曜日・大きな闘争】

「なぜお前のところに来たか、分かったであろう。今、わたしはペルシアの天使長と闘うために帰る。わたしが去るとすぐギリシアの天使長が現れるであろう。しかし、真理の書に記されていることをお前に教えよう。お前たちの天使長ミカエルのほかに、これらに対してわたしを助ける者はないのだ」ダニエル10:20，21

ここで天使は、人類史の舞台裏で起きている宇宙規模の戦いの一端に触れています。天使が目に見えないところで、わたしたちのために戦っている事実に、驚きを禁じえません。この場面での戦いは、ダニエルが「神様の前に心を尽くして苦行し、神意を知ろうとし始めたその最初の日から」（ダニエル10:12）始まっていました。天使はダニエルの祈りに応えるために遣わされたのです。神様はわたしたちが祈り求めるなら、すぐにでも答えて下さる方だとわかります。

ところが、途中で「ペルシア王国の天使長が二十一日間わたしに抵抗した」ため、来るのが遅れたと言うのです。ダニエルが断食して3週間祈っていた期間と一致します。祈りがすぐに応えられないことがある理由の一つが、サタンの妨害にあっているからだなのだと言うのです。すると、大天使長ミカエルが来て助けます。ミカエルとはイエス様のことであり、ペルシアの天使長やギリシャの天使長というのは、その国を支配している悪魔悪霊のことでしょう。そして、悪魔に勝てるのはイエス様以外にはいないのです。また、聖書では天使長の一人ミカエルと書かれていますが、天使長が複数いてその中の一人がミカエルというように読めますが、これは訳の問題で天の軍勢の指揮官と訳すべきで、つまりイエス・キリストとなります。

ダニエル書にこのようなことが書かれてあることで、天における善と悪との大争闘の一端を知ることができ、またわたしたちが地上で行うことが、天上でつながっていることもわかります。わたしたちが想像している以上に、天の世界とこの世の世界は近いのです。

【木曜日・勝利を得た天使長】

ミカエルには、「神のような者とはだれか」という意味があります。ミカエルは天の軍隊の指揮官として、民のために宇宙規模の戦いを繰り広げ、勝利に導きます。黙示録の中にも天で悪魔が反乱を起こした時にも、ミカエルが登場します。

「さて、天で戦いが起こった。ミカエルとその使いたちが、竜に戦いを挑んだのである。竜とその使いたちも応戦したが、勝てなかった。そして、もはや天には彼らの居場所がなくなった」黙示録12：7、8

このような描写から、ミカエルはイエス・キリストを指していることがわかります。また、コロサイ2：15に、「もろもろの支配と権威の武装を解除し、キリストの勝利の列に従えて、公然とさらしものになさいました」とあるように、キリストは悪魔との戦いにすでに勝利しておられることもわかります。